

## リーダーシップのあり方

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

受験勉強をなさっている方に一言お話いたします。受験勉強のコツはいくつかありますが、睡眠時間は1日7～8時間確保する、これが基本です。睡眠時間が足りないと頭が冴えず、覚えるべきこともなかなか覚えられません。ですから、7～8時間は必ずとって下さい。

また、寝ている時間以外は勉強するというのもコツです。いろいろな悩みもあると思いますが、悩む時間があったら勉強して下さい。睡眠時間を7～8時間しっかりと、起きている時間はすべて勉強に当てるのです。つまり、愚痴を言ったり、家族とケンカをしたり、悩んだりエネルギーを消耗するだけですので、それらをせずにひたすら勉強する、これが受験生です。

ところで、先週の放送でもお話しましたが、東京の経済同友会の中にある NPO 社会起業家研究会の関連で、1月9日～16日までアメリカのワシントン D.C とニューヨークに視察に行ってきました。全日空の大橋社長が団長で、私はその団員の一人として行かせていただきましたが、非常に勉強になりました。NPO という非営利組織で一番大事なことは、マネージメント、つまりどのように経営するかということです。まず、ボードという理事会がマネージメントをしている人たちが好き勝手をしていないか、設立の理念やビジョン、計画に従ってやっているかどうかをモニタリングします。そして、ちゃんとできているところに、企業や財団、民間の人たちが毎年50万円くらい出して支援します。それを集めたコミュニティ財団などが、きちんとマネージメントをやり、それを理事会がしっかり見張っている NPO のプログラムに助成金を出している仕組みを見てきました。これは、日本でも非常に参考になると思います。もう少しまとめてから HP に載せますので、ぜひ見ていただければと思います。

次に、リーダーシップとは何かということについてお話をさせていただきます。NPO も、学校も、リーダーシップがきちんとしていないとなかなかいい仕事にならないと思います。ピーター・F・ドラッカーという方が、「未来組織のリーダー」(ダイヤモンド社刊)という本を書いています。非常におもしろいので、御紹介させていただきます。彼は、経営学の神様と言われて、現在90数歳ですが、今もなお一所懸命にいろいろなことを私たちに教えてくださっています。

リーダーの仕事には、共通するものが6つあるそうです。何がしたいかからスタートするのではなく、何をしなければならぬかからスタートするのがリーダーである。つまり、ミッション(使

命)を持っているのがリーダーである。自分は何ができるか、何を行うべきかをいつも考えて、社会のニーズと同様に、自分の強みあるいは得意とすることの適応性を知り、できないことは人に任せ、できることは一所懸命やるのがリーダーである。この組織の目的と使命は何か、この組織が果たすべき目的は何かを考える、これがリーダーである。リーダーの下には多くの部下がいますが、その部下たちの多様性を受け入れて、自分のコピーなどは求めず、その人物が好きか嫌いかなどと考えたこともないのがリーダーである。多様性を受け入れながら、仕事についてはその成果、水準、質について十分に熟知している、これがリーダーである。部下の強みをおそれない。強み、つまり部下の素晴らしさを我がことのように喜べるのがリーダーである。例えば、アントニオ・カーネギーという人は、墓碑に『自分よりも優れた者とともに働いた者ここに眠る』と刻んでいます。自分よりも優れた部下のおかげで生涯を終えることができたということを表して、非常に感銘深い墓石であります。これが、リーダーのモットーです。何らかの方法で自分を鏡に映すということを経験して、自己点検をするのがリーダーである。鏡に映る姿が、自分の理想とする人間、尊敬する人間、信仰する人間に近いかどうかをいつも自問自答して、ややもすれば正しいことよりも人気をとることに走ってしまい、とるに足りない薄っぺらなことに手に染めてしまうというリーダーにありがちな落とし穴に陥らないように気をつけていただきたいと思います。

一流のリーダーとは、口先だけではなく実際に行動をとる人たちだということです。この著者ドラッカーのエピソードに、次のようなものがあります。第一次世界大戦の終戦後のことですが、この大戦についての本が出て、少尉軍人だったドラッカーの先生は、高校生であったドラッカーたちに、その本を読んで感想文を書く宿題を出し、その感想を発表し合ってクラスで討論を行ったそうです。その討論の中で、ある生徒が「本の中で、あの戦争は軍事的にも二流の戦争だったと言っているがどうしてですか。」と先生に尋ねたそうです。すると、先生は「将軍が戦死をしない戦争だったからだ。将軍たちは、はるか後方にいて、兵隊たちを死なせるだけの戦争だった。」と、ズバリ答えたそうです。

一流のリーダーは、多くの仕事について権限を委譲します。みんなにやらしてもらわなければ、雑務に埋もれてしまうからです。ただ、自分にしかできないこと、他の模範となるようなこと、永久に残ることについては、人任せにしないで自らが行うのがリーダーです。ピーター・F・ドラッカーは、万一戦争の場合、もちろん戦争は良くないことですが、自分が先頭に立ってやるくらいの人が始めてリーダーと呼べるということをおっしゃっていました。

NPO、企業、政府機関などいかなる組織であれ、リーダーシップのあり方を勉強することはできると思います。そして、ドラッカーの言う心構えでリーダーをやっていただければ、素晴らしい企業、NPO、政府機関、中央機関、教育機関になるのではないのでしょうか。